

災害図上訓練(DIG)

災害図上訓練（DIG[※]）とは、自分たちの住む地域で災害が発生したと想定して、どのように行動すべきかを話し合ったり、地図を見ながら実際の避難経路や危険な場所の確認を行うなどして、災害時の対応をイメージする模擬訓練です。ここでは、コミュニティ福井（福井地区の4町内会で構成された団体）の取り組みを紹介します。

※英単語のDisaster（災害）、Imagination（想像）、Game（ゲーム）の頭文字を取ったもの。

災害発生の可能性を肌で実感

「たった今、地震が発生しました。さあ、あなたはどうしますか？」DIGが始まってすぐ、司会の方からいきなり質問されて正直面喰らいましたが、自分の住む地域にも災害は起こり得るという意識が薄かったことに気付きました。今後も防災意識の向上を図り、何かあったときには協力し合える地域でありたいです。

訓練参加者の声



コミュニティ福井・各町内会の防災防犯部長の皆さん。
(左から村崎 弘さん、佐々木 春夫さん、小田 吉久さん)

コミュニティ福井では、今年5月に町内会の会員ら約30人が参加し、初めてのDIGを行いました。訓練は冬の早朝に地震が発生したという想定で行われ、参加者は自分に何ができるか対応策を考えたり、地図を見ながらどう避難するかなどを話し合いました。今回の訓練は、地域住民の皆さんの防災意識を向上させるきっかけにもなり、コミュニティ福井では現在、町内会ごとに防災マップを作成する取り組みも広がっているようです。



地図に自宅の場所や避難場所、危険箇所などさまざまな情報を書き込んで、地震が発生した場合に想定される被害や影響を考えます。

災害時要援護者の避難支援対策

大きな災害が発生したときには、高齢の方や障がいのある方など、周りの人の手助けを必要とする方（災害時要援護者）に対して、地域ぐるみで避難支援を行うことが大変重要になります。八軒中央地区の町内会では、同地区福祉のまち推進センターの支援を受け、災害時要援護者避難支援対策に取り組んでいます。



地域住民や町内会、福祉のまち推進センターなどの関係者が集まり開催された「災害時要援護者避難支援対策説明会」の様子。

きっかけは、札幌市が各区で進める「災害時要援護者避難支援モデル事業」のモデル地区として、平成20年に八軒中央地区東1ブロックに属する7つの町内会が取り組みを始めたことでした。

その内容は、支援を受ける方、支援をする方をそれぞれ確認して名簿にまとめ、いざというときに要援護者を支援できる体制を整えておくというものです。最初は責任の重さを感じてか、特に支援をす

る側の方がなかなか集まらなかったようですが、説明会を開いたり、個別の訪問で名簿への登録を呼び掛けるなどの活動を続けた結果、徐々に取り組みの必要性や大切さが伝わり、今ではモデル地区以外にも、八軒中央地区の町内会すべてにこの取り組みが広がっています。また、同地区では町内でさまざまな行事を開催して、普段から住民同士が顔見知りになれるよう心掛けています。

自らの手でまちを守る！

災害が起きたときに被害の拡大を防ぐためには、隣近所の方々と助け合い、力を合わせて行う「自主防災活動」が大きな役割を果たします。皆さんもこれを機会に、防災のために日ごろからできることはないか、考えてみてはいかがでしょうか。



▶パンフレット「あなたの町内でもはじめよう自主防災」
※自主防災活動の概要について紹介しています。

ホームページでご覧になれます。
www.city.sapporo.jp/kikikanri/aramasi/panf.html